令和５年度
品川区町会・自治会課題解決支援事業
報 告 書

令和６年３月

品川区

目 次

序　事業の概要.....1

Ⅰ　町会・自治会伴走型支援プログラム.....2
　１．町会・自治会伴走型支援プログラムとは.....2
　　（１）　事業概要.....2
　　（２）　令和５年度の支援団体.....2
　２．実施概要.....3
　　（１）　八ッ山町会.....3
　　（２）　旗の台西二丁目町会.....4
　　（３）　大井鹿島町会.....5
　　（４）　五反田中部町会.....6
　　（５）　中延五丁目町会.....7

Ⅱ　町会・自治会交流会.....8
　１．町会・自治会交流会実施報告.....8
　　（１）　事業概要.....8
　　（２）　交流会の開催概要.....8
　２．結果概要.....12
　　（１）　第１回交流会「新しいイベントの運営方法」.....12
　　（２）　第２回交流会「女性会長による地域活動の活性化」.13

Ⅲ　総括.....14
　　（１）　伴走型支援プログラム.....14
　　（２）　交流会.....15
　　（３）　支援を通じて見られた課題.....15
　　（４）　今後の支援施策の方向性.....17

資料編.....18
　「町会・自治会交流会」配布資料.....18
　　（１）　第１回交流会.....18
　　（２）　第２回交流会.....27

序　事業の概要

品川区では、平成 28 年に「品川区町会および自治会の活動活性化の推進に関する条例」を制定し、町会・自治会を「良好な地域コミュニティの維持と形成に関して区と協働する最大の相手方」として、町会・自治会活動への支援を強化してまいりました。令和２・３年度には「町会・自治会活動活性化促進調査」を実施し、条例制定後の町会・自治会の状況と課題を把握しました。また、課題解決に向けた「町会・自治会伴走型支援プログラム」を、令和４年度、および令和５年度に実施しました。

本報告書は、令和５年度に専門コンサルタントとともに実施した「町会・自治会伴走型支援プログラム」と「町会・自治会交流会」の概要をとりまとめたものです。

Ⅰ　町会・自治会伴走型支援プログラム

１．町会・自治会伴走型支援プログラムとは

（１）　事業概要

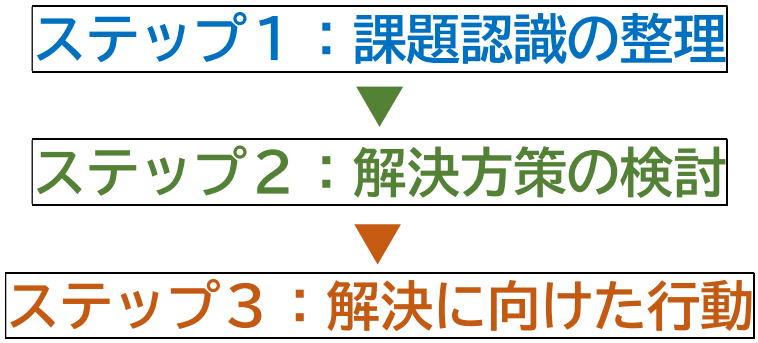
本事業は令和４年度に開始した、品川区の独自事業です。活動活性化に向けた課題の解決を希望する町会・自治会に対して、専門コンサルタントが相談に乗りながら、ともに課題解決や新たな価値の創造に向けた支援を行うものです。

（２）　令和５年度の支援団体

支援の対象となる町会・自治会は、令和５年６～７月に区が募集し、立候補した町会・自治会を対象としました。令和５年度は、次の５町会への支援を行いました。

八ッ山町会	旗の台西二丁目町会	大井鹿島町会
五反田中部町会	中延五丁目町会	

支援プログラムは、担当コンサルタント（株式会社ダイナックス都市環境研究所）が令和５年８月から令和６年３月までの約半年間、月に１回程度のペースで出向き、町会ごとに次のステップで実施しました。



2．実施概要

（1） 八ッ山町会

課題認識の整理

▲地域住民、および地元企業の町会への加入促進

・役員、会員の高齢化が課題

・新型コロナウイルス感染症の流行以降、脱会する会員が増えている

▲町会活動の情報発信

・地域内にマンションが増えており、防災の面からも、マンションとの交流を考えたい

・独居高齢者や外国人も増えており、様々な手法での情報発信が必要となる

解決方策の検討

町会のSNSの作成およびアカウントの周知を行う

解決に向けた行動

●町会のSNSアカウントおよび周知用チラシの作成

- 町会のSNSアカウント（Instagram）を作成
- 他SNSと投稿が連動できるように設定
- 掲示板や回覧で周知できるようなチラシを作成



●役員会でのSNSの説明資料の作成

●町会内での投稿の体制の提案

●投稿の定型文の提案

- SNSの利用方法、投稿のコツなどを、役員会で説明
- 町会でのSNSの管理方法や投稿ルールなどを提案



●町会外からの参加者の対応について説明

- 町会外からの参加者が活動に参加した場合の対応方法を、役員会で説明
- 他地区の町会・自治会の事例を紹介しつつ、適切なコミュニケーションなどについて解説



町会からのコメント

- 町会でICTを導入しようとしても、導入や使用方法のノウハウが不足していたり、町会内で導入のメリットを十分に共有できない場合があるので、説明いただけたのはありがたかった
- SNSは徐々に閲覧者を増やしたい。SNSは若い人のほうが理解があるので、新しく町会の活動に参加したい人へ、SNSの運用のお手伝いをお願いしたいと思う

（2） 旗の台西二丁目町会

課題認識の整理

▲地域活動参加者の減少と、集合住宅へのアプローチ

- 町会全体の高齢化、また古くから住まう住民が代替わりして、集合住宅が増えており、町会加入率は高いものの、地域活動への参加者が減少している
- 集合住宅（マンション・アパート）居住者の地域活動への参加を促したいが、接点を持つ術がない
- 管理組合のある分譲マンションとも、関係性を構築できていない。そのため、マンション居住者へ広報活動（チラシ配布等）が進まない

▲町会会館の整備と活用方法

- 町会内のマンションの1階に「町会会館」を整備できたが、活用されていない
- 災害時に拠点となりうるため、備蓄の整備を進めていきたい

▲町会運営のための人手不足

- 町会活動は、実質的に会長と副会長で運営している。運営側として活動する人材が必要である

プログラムの検討

- 町会活動の周知・広報を進め、町会員とのつながりを強化する
- 主体的に活動に参加する住民を増やす

課題解決に向けた支援内容

●分譲マンション理事会との関係づくり

〈優先順位の整理〉
- 情報交換を実施するマンションの選定→町会に加入している管理組合のある分譲マンション4つに絞る

〈相談内容の整理〉
- 会長を窓口として理事会にお声かけするためのサポート

〈事務面〉
- 文書作成サポート



●「LINEオープンチャット」の活用

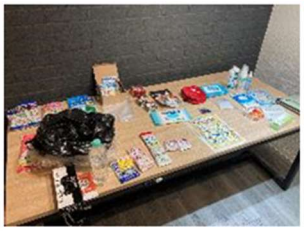
- 役員向けのグループLINEはあるが、事務連絡が中心
- 地域内の住民が気軽に参加できるように「LINEオープンチャット」の設置を提案
- 掲示板を活用した、「周知チラシ」の作成





●町会会館のお披露目！「ぼうさい講座」の開催。備蓄品導入について助言







〈企画検討サポート〉
- 住民が参加しやすい防災をテーマとした「ぼうさい講座」の実施
- 企画案作成、広報サポート（チラシ作成）実施

〈当日運営サポート〉
- 当日の運営サポート、防災講話、防災グッズ展示の実施

町会からのコメント

〈背中を押してもらうような支援が多く、町会運営の進め方に自信が持てた〉
- 町会に携わって数十年。あり方そのものを見直す時期にある。地域力の強かった時の発想に引きずられることなく、新しい発想・手段を取り入れながら、どんどん新しいことに挑戦をしていきたい
- 「LINEオープンチャット」を実施したところ、ルームに参加し、意見交換できる方が出来た
- 町会会館での「ぼうさい講座」は参加者から好評だった。今後、町会会館を活用していく上で、定期的な催しの開催に意欲が沸いた。（マンション理事会の会議、社協と連携した高齢者の集いの場、美化活動の講話等）

（3） 大井鹿島町会

課題認識の整理

▲加入促進・ニーズ把握
- 町会加入者が満足しているのか、不満があるのかを把握できていない
- どのような活動を求めているのかを把握できていない
- 新築戸建が建ってもすぐに加入のアプローチが出来ていない

▲担い手不足
- 行事が多く、人手が足りない（行事は減らしたくない）

▲情報発信
- 町会活動の広報のあり方を検討したい

プログラムの検討

町会への満足度と活動ニーズの把握、新規加入促進のため、大井鹿島地区全世帯への「町会活動に対するアンケート調査」の実施

課題解決に向けた支援内容

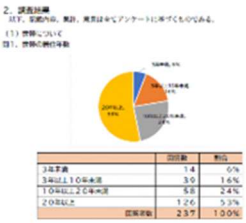
●アンケート項目の作成・発送

〈事前準備〉
・町会での活動内容を役員に対してヒアリング
・スケジュールの確認
〈アンケート項目の提案〉
・アンケート項目の作成・検討
〈事務面〉
・回収方法（郵送回答用に返信用封筒の作成、WEB回答用にWEBフォーム作成）
・鏡文として、加入促進チラシの作成補助
・アンケートの入力・集計



●アンケート報告会の実施

・アンケート回答の入力・集計
・結果のとりまとめ資料作成
・役員会にてアンケート結果報告
・回覧板用の配布資料作成



町会からのコメント

・アンケートの意見や分析で得られた内容を今後の運営に活かせるよう努力していきたい
・広報の重要性を再認識し、わかりやすく充実した内容とするため、工夫や改善を図りたい

（４） 五反田中部町会

課題認識の整理

▲会員数の減少、役員の担い手不足

・町会で活動する人手が不足しており、実施したい活動が満足にできていない

・町会の活動に参加する意義等が、住民に理解してもらえない

・町会活動を可視化させ町会に興味を持ってもらい、参加する人が増えることを期待したい

▲町会業務の多様化、負荷の増加

・町会業務の多様化や人手の不足により、個々の役員の負担が多い

▲情報発信のリソース不足

・町会の活動に、若い人たちに参加をしてもらうため、情報発信を行いたい

・しかし、町会単一では発信できる情報に限りがあり、定期的な情報発信が困難

解決方策の検討

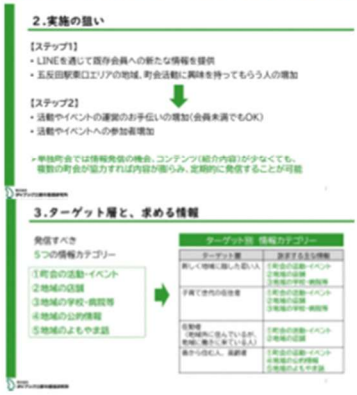
・町会活動に参加するきっかけ作りの提供

・近隣町会と連携した、複数町会合同での広報の検討

解決に向けた行動

●SNS（LINE公式アカウント）の作成

●近隣町会への合同SNSアカウント作成のよびかけ



- 地域の住民に町会の活動に興味を持ってもらうきっかけとして、SNSを作成
- SNSで地域に関する様々な情報を在住、在勤者に発信し、周辺地域への関心を持ってもらう
- 一方で単独町会で発信するコンテンツには限度がある
- そこで近隣町会と合同でのSNSアカウント作成を検討。複数町会の合同で発信することで単独での発信よりコンテンツが充実するほか、負荷を分散することができる
- 広報での連携をきっかけとして、今後も近隣町会での連携を深める

町会からのコメント

- 町会活動に関心を示す住民が減っていることなどから町会の加入者が減っており、周辺町会含め同様の課題を抱えている
- 近隣住民に情報発信を行い、お互いにコミュニケーションを取れる機会を今後は設けたい
- 周辺町会との連携を進めることで、個々の町会の負担軽減を図るとともに、一体の地域としてまちづくりや地域の活性化を行いたい。近隣住民や近隣町会や区とも連携して、地域の風紀の改善に今後ますます注力したい

（５） 中延五丁目町会

課題認識の整理

▲役員の担い手不足

- イベントの企画や準備、実施に至るまでのマンパワーが足りない
- 役員の担い手が見つからない

▲町会活動の情報発信

- 従来の回覧板と掲示板での広報に加え、デジタルでの発信も実施したい
- 町会関連の書類を電子化して、役員でデータを共有できるようにしたい

解決方策の検討

- 会長、副会長、その他役員等の町会業務を整理し、組織体制を見える化する
- 町会活動をＳＮＳ等で発信するためのツールを作成する
- 町会の資料を電子化し、クラウドに保管できるようにする

解決に向けた行動

●会長、役員の業務のヒアリング

〈ヒアリング対象者〉
- 副会長、部会長に対するヒアリング

〈ヒアリング内容〉
- 業務内容、役割、改善すべきこと、今後実施したい活動等

●業務の整理案の作成

〈業務〉
- 会長、副会長、部会の業務一覧表の作成
- 現状の業務内容、役割の見直しの提案

●町会でのオンラインストレージ導入

- GoogleDrive、OneDrive、Dropboxの機能やメリット、デメリットの紹介

町会資料共有のためのクラウドサービス比較

	OneDrive	Google Drive	Dropbox
費用	無料	無料	無料
容量	5GBまで	15GBまで	2GBまで
必要なもの	マイクロソフトアカウント（メールアドレス）	Gmail	Dropboxアカウント（任意のメールアドレスで作成可能）
機能	ファイルと写真の保存、閲覧、編集、共有・整理		

・機種自体はどのサービスも同様。無料版で使用できる容量や、関連したサービスに差がある。

●町会でのSNSアカウント作成

- X、Instagram、Facebookの紹介
- 町会のInstagramの開設補助、活用方法の講習会の実施



町会からのコメント

- 課題分析並びに役員個々の個性分析が的確であった。これに基づき町会事業と町会活動に対する意識等、役員相互の情報共有についてデジタル活用の基盤が導入出来た。

Ⅱ　町会・自治会交流会

１．町会・自治会交流会実施報告

（１）　事業概要

地区の枠を超えた交流を図りながら、勉強会の要素を加えた意見交換会として２回の「町会・自治会交流会」を実施しました。

（２）　交流会の開催概要

各回のテーマと開催概要は次のとおりです。

<table>
<tr><td>第１回</td><td>新しいイベントの運営方法
ねらい：町会・自治会以外の組織を巻き込んだイベントの事例紹介。マンションとの協力関係、子育て世帯の参加について自身の町会・自治会での活動例や課題について交流する。</td></tr>
<tr><td>日時</td><td>令和５年 10 月 26 日（木）　18：00～20：00</td></tr>
<tr><td>場所</td><td>品川区役所　第二庁舎６階　261・262 会議室</td></tr>
<tr><td>参加者</td><td>コーディネーター：淑徳大学 社会福祉学部 准教授 菅野道生氏
事例紹介者：港区　西町自治会 会長 牧野正道氏
港区　虎ノ門一丁目琴平町会 副会長 小野寺学氏
町会関係者：19 人

（参加町会・自治会）
都営北品川第二アパート自治会、都営東品川第四アパート自治会、池田山町会、上大崎一丁目第一愛誠会、大崎本町三丁目町会、西品川二丁目会、大井水神町会、大井三丁目町会、大井鹿島町会、出石町会、旗の台六丁目町会、中延二丁目町会、西中延二丁目町会、戸越四丁目町会、戸越六丁目町会

（事務局）
品川区地域活動課：11 人（内、品川区地域センター職員７人）
株式会社ダイナックス都市環境研究所：３人</td></tr>
<tr><td>概要</td><td>
<table>
<tr><th>時間</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td>18：00</td><td>開会挨拶</td><td>・区担当者からの挨拶、交流会の趣旨を説明。</td></tr>
<tr><td>18：05</td><td>出席者の紹介</td><td>・コーディネーター（菅野氏）自己紹介。
・あわせて、交流会の進め方の説明を実施。</td></tr>
<tr><td>18：10</td><td>事例紹介①</td><td>・西町自治会（港区）の活動事例紹介。概要を町会より説明し、コーディネーター</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

			より質疑を実施。
	18：30	事例紹介②	・事例紹介①と同様の形で、虎ノ門一丁目琴平町会（港区）の活動事例紹介を行う。
	18：50	意見交換	・参加者をグループに分けて、グループ内で意見交換を実施。事例紹介を聞いた感想や、それぞれの町会での工夫や課題を出す。 ・グループ内で出た意見を、参加者全体で共有。
	19：50	講評、 統括コメント	・コーディネーター、および話題提供者２名からコメントをいただく。
	19：55	閉会、 アンケート 記入	・区より閉会挨拶。 ・アンケートを記入した参加者から解散。

当日の様子





<table>
<tr><td>第２回</td><td>女性会長による地域活動の活性化
ねらい：町会・自治会の女性会長同士の交流</td></tr>
<tr><td>日時</td><td>令和５年 12 月５日（火）　14:00～16:00</td></tr>
<tr><td>場所</td><td>品川区役所　第二庁舎５階　251 会議室</td></tr>
<tr><td>参加者</td><td>コーディネーター：淑徳大学 社会福祉学部 准教授 菅野道生氏
事例紹介者：西中延二丁目町会　發智敬子氏
町会関係者：12 人

（参加町会）
東品川第一自治会、池田山町会、上大崎一丁目愛誠会、上大崎一丁目第一愛誠会、西五反田七・五・三町会、西五反田六丁目町会、大崎居木橋町会、平塚一丁目南部町会、西中延二丁目町会、戸越二丁目町会、八潮１１号棟自治会

（事務局）
品川区地域活動課：８人（内、品川区地域センター職員４人）
株式会社ダイナックス都市環境研究所：３人</td></tr>
<tr><td>概要</td><td>
<table>
<tr><th>時間</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td>14：00</td><td>開会挨拶</td><td>・区担当者からの挨拶、交流会の趣旨を説明。</td></tr>
<tr><td>14：10</td><td>前回交流会の振り返り</td><td>・ダイナックスより、令和２年度に実施した町会・自治会女性会長を対象とした交流会（ヒアリング）について報告。</td></tr>
<tr><td>14：15</td><td>出席者の紹介</td><td>・コーディネーター（菅野氏）自己紹介。
・あわせて、参加者一人ずつ自己紹介。</td></tr>
<tr><td>15：13</td><td>休憩</td><td></td></tr>
<tr><td>15：20</td><td>事例紹介</td><td>・子育て世代からの意見として、西中延二丁目町会の活動事例を紹介。概要を發智氏より説明し、コーディネーターより質疑を実施。</td></tr>
<tr><td>15：50</td><td>質疑応答および意見交換</td><td>・参加者全体での質疑応答および意見交換を実施。事例紹介を聞いた感想や、それぞれの町会・自治会での工夫や課題を出す。</td></tr>
<tr><td>15：55</td><td>講評、
統括コメント</td><td>・コーディネーターからコメントをいただく。</td></tr>
<tr><td>16：00</td><td>閉会、アンケート記入</td><td>・アンケートを記入した参加者から解散。</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

当日の様子





２．結果概要

（１） 第１回交流会「新しいイベントの運営方法」

テーマに関する情報提供

- 西町自治会（港区）：町会域内の高層マンションと共催にて納涼祭を実施。一体感がでるようにグッズ（てぬぐい）を製作し、関係者に配布した。町会の弱体化・人手不足といった問題に対して、祭礼同好会やマンション住民と共に取り組むイベントで、地域の一体化にむけた機運を醸成することを目指した。
- 虎ノ門一丁目琴平町会（港区）：商業用ビルの建設等再開発が進む地域で、高齢住民も地元企業従業員でも誰でも参加できるまちづくりをするために、まちづくり組織を立ち上げた。お笑いイベントや祭りを切り口に、イベントに立ち寄る人を町会活動に引き込む仕組みを考え企画している。実際にイベントからまちに興味をもち、清掃活動に関わる人も増えた。

参加者による意見交換

●マンション住民との連携の難しさ

- マンション建設時に説明会に参加し、町会費用をもらうことの覚書を交わしているが、マンション住民との関わりは長年試行錯誤が続いている。
- 町会を手伝うと町会の役員にされるという話がマンション内に浸透し、町会に関わることをやめている様子がみられる。
- マンション住民を巻き込むことは難しいため、勧誘を諦め、町会費をいただくのみになっている。町会行事を豪華にし、活動に参加する人に還元するようにしている。

●「町会の若返り」は喫緊の課題

- 町会の若返りのポイントは、子どもを町会行事に取り込むことではないか。
- 若手町会員の町会活動や役員会への参加を、リモート参加可能とすることやＬＩＮＥの活用等の手段も講じている。
- 新しく加わる人が自由にできる余地を残し、お祭りの一部を若い人に任せてはどうか。
- 地域のパトロールなどの地味な活動にはなかなか若い人は参加しない。
- 若い人はフルタイムで働いている場合が多く、朝の通学見守りの旗持ち等に参加することは難しいかもしれない。局所的に年何回かのイベントへの参加であれば可能かもしれない。

（２） 第２回交流会「女性会長による地域活動の活性化」

テーマに関する情報提供

●西中延二丁目町会　發智氏

- 町会活動参加のきっかけは旗持ち：婦人部の通学見守りの旗持ち活動を手伝い始めたことがきっかけ。都合の良い２つの曜日を伝えたところ週２回旗持ちを依頼され、担当している。
- 商店街盆踊り消滅への危機感：子ども達が地元盆踊りを踊る機会が減ったことや、商店街のお店がどんどん減っていることに危機感を感じ、個人で盆踊り大会開催にむけて動き出した。盆踊り大会は400名以上が来場して無事開催され、来年度以降の実施にむけて近隣町会との連携を目指している。
- 若い世代の地域活動参加にむけて：共働き世帯が多く、地域の活動への参加は難しい状況。お祭り等の行事の一部分をピンポイントで手伝ってもらうことを、町会活動のきっかけにしてみてはどうか。

参加者による意見交換

●家事育児との両立

- 役員会等は夕方以降に実施されることが多いため、食事を準備するなどの対応が必要である。
- 若い住民にも町会に入って欲しいとは思っているが、子育てで忙しいという話を聞いている。

●婦人部の活動等を経て、会長へ

- 30代後半に婦人部に入ったことをきっかけに、町会活動を行うようになった。
- 祭りのおにぎり作りや旗持ちなど、町会活動の中でも婦人部の役割負担は大きい。コロナ禍を経て、食事を外注するなど体制を整えた。

●若い世代との関わり

- 自治会に参加する人手が不足しているため、自治会の解散も視野に入れているが、解散するにも法人登記の手続き等があり難しい。防災の観点からも自治会という組織は必要だと考えるが、若い世代に引き継ぐ上では様々課題がある。
- オンラインやＱＲコードの活用を若い役員が検討してくれているが、高齢の役員はついていけない部分もある。しかし、お便りにＱＲコードを導入したところ、意見をくれる若い人がどんどん増えている。

Ⅲ　総括

（１） 伴走型支援プログラム

令和５年度支援を実施した５団体において、以下のとおり課題と支援メニューを整理した。

類似する課題もいくつかあった一方で、町会・自治会が直面している課題は多岐に渡っており、それぞれの町会・自治会に対して個別の支援メニューを提案・実施した。

町会名	課題	支援メニュー
八ッ山町会	・再開発等の地域構造の変化による地域人口の流動化による担い手不足 ・情報発信のデジタル化	加入促進に向けた情報発信支援 ★Instagram の開設
五反田中部町会		加入促進に向けた情報発信支援 ★LINE 公式アカウントの開設
旗の台西二丁目町会	・コロナ禍の影響による活動及び組織力の低下	①町会員とのつながり強化 ★防災をテーマとした講演会の開催支援・運営 ★マンションと交流するための仕掛けづくり（話し合いの場を設ける） ②情報発信支援 ★LINE オープンチャットの開設 ★イベント告知チラシの作成
中延五丁目町会		①組織体制強化の支援 ★町会活動における業務の一覧表の作成 ★各部会での役割の明確化・効率化等 ②情報発信支援 ★Instagram の開設 ③その他デジタル化支援 ★町会関連データの電子化、クラウドサービスの導入
大井鹿島町会	・活動の活性化 ・ニーズの把握	加入促進及び活動の周知・ニーズ調査 ★全世帯向け町会活動に関するアンケート調査票の作成・集計、提案

（２） 交流会

回	テーマ	概要
１回目	新しいイベントの運営方法	・町会・自治会とマンションや地元の企業等、他団体と連携した事例を提供 ・提供した事例を踏まえ、参加した町会・自治会がマンションや地元の企業等、他団体・組織との連携の方法について意見交換
２回目	女性会長による地域活動の活性化	・品川区内で活躍している町会・自治会による事例報告 ・女性会長同士のつながり醸成を目的とした意見交換

（３） 支援を通じて見られた課題

①　組織の人手不足

今年度伴走支援を行った町会・自治会において、「組織の人手不足」が共通した課題であった。人材不足には社会情勢の変化などが大きく影響しており、町会・自治会活動の自助努力や支援のみで容易に解決するものではない。また人手不足に紐づいて、手を動かす人力の不足や技術・知見を有する人材の不足などの課題も生じている。

人材不足を補う方法として、これまでの町会・自治会という枠組みや概念を超えた考え方が必要になる。例えば、町会・自治会単独のリソースだけでなく、隣接町会との連携やイベント単位での協働を行ったり、NPO、企業、商店街、大学・学校関連などさまざまな主体と連携しながら活動を実施したりすることが求められる。また会員の枠組みを広げるために、準会員制度やサポーター制度など、町会に加入せずとも活動に関わることのできる新たな関わり方も、町会・自治会の間で広まりつつある。

② 地域との関係づくり

町会・自治会とマンション、NPO、企業、商店街、大学・学校関連など、他団体との連携・交流を実施しようとしている町会・自治会は多いが、連携・交流の手法がわからなかったり、とっかかりとなるネットワークを有していなかったりする。

他組織との連携・交流を行うための第一歩として、今年度実施した交流会やこれまで品川区で調査した好事例であがったようなノウハウを、それぞれの町会・自治会の実情に合うような形で模倣したり、連携・交流について町会・自治会内で話し合う機会を設けたりすることが望ましい。ほかにも、連携のノウハウを知っている外部専門家に関わってもらい、他組織との連携・交流のネットワークを構築してもらうことも一案である。

③ 情報発信

情報発信の手法が掲示板と回覧板のみの町会・自治会が多い一方、ライフスタイルや情報媒体の変化から、回覧板に対してはデジタル化を希望する声が多く挙がっている。町会・自治会から定期的に情報を発信することで、町会・自治会の活動や地域に興味を持つ人が少しずつではあるが増えると思われるため、町会・自治会の活動をより多くの人の目に留まるような工夫が必要となる。加えて、誰でも気軽に参加できる楽しいイベントを実施するなど、地域のいろいろな人が関われるような行事の実施と周知を継続的に行い、町会・自治会に関わる機会を作り、町会・自治会の存在を住民に認知してもらう必要がある。

多くの人に発信する手法として、SNS（LINE 公式アカウント、LINE オープンチャット、Instagram、Facebook、X（Twitter）等）の活用などが求められるが、SNS の導入や運用のノウハウを有していない町会・自治会も多い。SNS の導入に向けて、運用に知見を有する外部専門家へ相談するほか、若者の多くはSNSの知見を有するため、大学や他団体などと連携し、SNSの導入・運用のお手伝いをしてくれるような人材を発掘できると良い。

（４） 今後の支援施策の方向性

①　伴走型支援プログラム

前述の課題を町会・自治会単独で解決するのは困難であり、また一朝一夕で解決できるものではない。本事業のような第三者視点を有する専門家による丁寧な寄り添いを行う伴走型支援によって、町会・自治会が抱える課題を明確にすることが可能となり、限られたリソースで取り組むべき活動に解決すべき課題（解決できる課題）の優先順位もつけることができる。

また、これらの取り組みを好事例として横展開することで、町会・自治会の活動のきっかけにつなげたい。

②　地域の多様な団体との連携強化

町会・自治会単独で多様化している社会課題に対応することは困難であるため、前述のとおり町会・自治会を含めた組織同士で連携・交流を行い、ステークホルダーごとの専門性を活かしながら、地域の課題解決に取り組むことが望ましい。区としては町会・自治会が地域の多様な団体と連携して実施する事業を支援し、地域団体同士で顔の見える関係を構築することにより、町会・自治会活動の担い手の確保や活動のさらなる活性化を目指す。

③　マンションとの関係づくり

マンションとの関係性づくりを課題と感じる町会・自治会は多く、本区の地域特性上、今後もマンション建設そのものやマンション住民の増加が見込まれる。一方でマンションとの関係づくりに成功した事例も見られることから、それらの事例をノウハウとしてまとめるなど、マンションとの関係づくりに悩む町会・自治会に向けた支援策を展開し、町会・自治会活動の担い手不足やマンション居住者の加入促進などの課題に、引き続き対応する必要がある。

資料編

「町会・自治会交流会」配布資料

（１） 第１回交流会

令和5年度 町会･自治会交流会(第１回)

次第

日　時　令和５年 10 月 26 日（木）
午後６時～午後８時
場　所　品川区役所　第二庁舎６階
261・262 会議室

１．開会

２．出席者の紹介

３．事例紹介
港区の町会・自治会より活動紹介・質疑応答を行います。

４．意見交換
参加者の皆さんで意見交換を行います。

５．閉会

配布資料：
資料１　「港区・西町自治会」活動紹介
資料２　「港区・虎ノ門一丁目琴平町会」活動紹介
資料３　アンケート

（出席者紹介）

コーディネーター：淑徳大学社会福祉学部准教授 菅野 道生氏
事例紹介：西町自治会（会長）、虎ノ門一丁目琴平町会（副会長）
品川区町会･自治会参加者(13町会)：
都営北品川第二アパート自治会、都営東品川第四アパート自治会
池田山町会、上大崎一丁目第一愛誠会、大崎本町三丁目町会、西品川二丁目会
大井水神町会、大井三丁目町会、大井鹿島町会、出石町会
旗の台六丁目町会、戸越四丁目町会、戸越六丁目町会
品川区：地域振興部地域活動課

資料１

2023　納涼祭

20231026　説明会

プラウドタワー白金台ふれあいサロン
西町自治会　牧野正道



共同催事開催の狙いと結果

１.地域一体化で親睦をはかる
　両自治会の名前を染め抜いた手ぬぐいで盆踊りを
　踊り一体感が出て開催委員会で交流が始まった

２．催事経費を行政の助成金で軽減化
　　諸経費が助成金で賄われた

令和５年度　納涼際　共同開催案　　20230407

西町自治会
プラウドふれあいサロン

１．概　要
・日時　令和５年７月２３日 日曜日　　周辺団体の開催と重複回避
　イベント 17-18
　踊り　　18-20
　　花火　　20-20：30
　　片付け　20：30-21
・屋台（自治会運営）
　　アルコール・、ソフトドリンク　　（助成金対象外）
　　食品　揚げ物　乾きもの　　（助成金対象外）
・設営
　やぐらと提灯・スピーカー配線（自治会所有）　（業者設営と撤収）
　物販屋台
　音響設備　アンプとプレイヤー　　（自治会所有）
　ゴミ回収箱
　感染症対策の備品配置

２．申　請
　・高輪児童遊園　使用申請　高輪支所町づくり課
　・傷害保険

３ 情　宣
　・告自治会作成の告知ポスター　　掲示板と協力店舗・施設
　・高輪支所　協働推進課サイネージュ
　・プラタカネット
３ その他
　西町自治会とプラウドふれあいサロンと参加予定の町会の染め抜き手ぬぐいを作成

・極力、助成金申請経費を利用する

２０２３西町自治会・ﾌﾟﾗｳﾄﾞタワー白金台ふれあいサロン　共同開催納涼祭　　想定経費関連

経　費	内　容		小　計	
消耗品費	告知ポスター　B4用紙		500	
消耗品費	告知チラシ　A4用紙		500	
消耗品費	告知ポスター　印刷インク		30,000	
消耗品費	告知ポスター　ラミネート		1,000	
消耗品費	衛生手袋		1,000	
消耗品費	熱中症予防　氷		2,000	
消耗品費	熱中症予防　プラコップ		3,000	
消耗品費	熱中症予防　ミネラル水		2,000	
消耗品費	開催促進品		5,000	
消耗品費	町会共同催事　参加賞		100,000	
消耗品費	会場案内パネル		20,000	
消耗品費	ゴミ箱・袋		10,000	
消耗品費	ペーパータオル		2,000	
			177,000	48.9%
役務費	傷害保険　5,000			
			5,000	1.4%
委託費	太鼓やぐら組み立て		100,000	
			100,000	27.6%
賃借料	電源ジェネレーター		20,000	
賃借料	スピーカー　電気配線		60,000	
			80,000	22.1%
	計	362,000		100%

2023/08/05 11:00　　4654391231850747O6.jpg



2023/08/05 10:58　　465439142999490982.jpg



2023/08/05 10:54　　465439135835619457.jpg





小野寺　学

ONODERA MANABU

プロフィール

グー・チョキ・パーで何つくろうをコンセプトに

グー☆チョキ☆パートナーズ



goo

小野寺 学

アートディレクター、グラフィックデザイナーとしてブランディング、映像、広告企画製作に従事。
主にミュージカル、舞台のキーヴィジュアルや大手鉄道会社、大手通信会社、テレビ局など。

[まち活動でのつながり]
みんなの経済新聞ネットワーク 新橋経済新聞運営／Come on 虎ノ門製作委員会／虎ノ門一丁目琴平町会役員／港区観光協会／愛宕山ライオンズクラブ／虎ノ門天狗無尽の会／地元企業、店舗とのつながり／ご当地キャラ協会／地方自治体（ご当地キャラ文脈）／MON!MON!製作委員会

[まち活動でのTV・ラジオ出演]
ラジオ日経「カモン虎ノ門ラジオショー」メインMC、企画担当／テレビ東京「にじいろ日和」／NHKBSプレミアム「TOKYOディープ」
TOKYO MX「みうらじゅん&安齋肇のゆるキャラに負けない！」／J-Wave「CHINTAI TOKYO-GRAPH」 他



choki

畑谷 芳樹

株式会社ビオトープ 代表取締役／森と海株式会社 代表取締役／株式会社スワンブリッジパートナーズ取締役／
株式会社ストリウム執行役員／NPO法人土砂災害防止広報センター アドバイザー

坊主頭。
呑むのと食べるのと音楽が大好き。
人と人が交わる空間づくりが開心事。

ブランディング/クリエイティブ会社のビオトープ代表を努めながら、虎ノ門「新虎小屋」など場づくりを実践するグー・チョキ・パートナーズ株式会社や、日本酒と出汁料理の店「浅草おと」を運営する株式会社スワンブリッジパートナーズなど、さまざまな環境の小さな会社で愉快な仲間たちと一緒に活動しています。
ビオトープは、ギリシャ語のBIOS"生命"とTOPOS"場所"という意。「小さな生息圏の集まりで生まれ育む環境を創る。」という願いで過ごしています。



par

末吉 隆彦

・1992~2004年、ソニーにてVAIO C1などノートブックPC設計開発に従事。
・2005-2007年、ソニーコンピュータサイエンス研究所にてリサーチャーとして屋内測位技術&サービス企画開発。
・2007年7月、ソニーCSLから初のスピンアウトベンチャーとしてクウジット設立。
・2011年、電通国際情報サービスと業務・資本提携。
・2015より慶應SDM 研究員として、前野隆司教授、保井俊之客員教授らと共同研究（幸せの構造分析、エミーとゼニーの経済圏など）スタート。
・2016年、カモン虎ノ門制作委員会 小野寺学氏、ビオトープ 畑谷芳樹氏らとグー・チョキ・パートナーズ共同設立、街づくり活動をテクノロジー、イノベーションの観点から事業推進。
・2018年、H2O総合研究所/健康経営研究会 平野治氏とマイネム株式会社を共同設立。笑顔づくりと社会改題解決の社会装置に取り組む。
・2019年、笑顔づくりと感染症予防の社会装置emmyWashを発表、実証実験を開始。







YouTube

“ちょっと怒られる”をテーマにやっていること

- みんなの経済新聞ネットワーク　新橋経済新聞　編集長
- Come on 虎ノ門製作委員会　代表
- MON!MON!製作委員会　代表
- 新虎小屋　主人
- 虎ノ門一丁目琴平町会　役員
- 港区観光協会会員
- 愛宕山ライオンズクラブ
- 虎ノ門天狗無尽の会員
- ご当地キャラ協会会員
- ちきゅうの学校　用務員
- 文化服装学院　非常勤講師



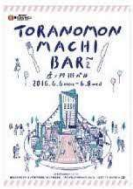




COME ON! TORANOMON!!

ちきゅうの学校 School of earth

新虎小屋 SHIN TORA KOYA







MINKEI 新橋経済新聞

MON!MON!

グー☆チョキ☆パートナーズ

なんで都心でまちづくりやってるの？ まちづくりは必要？

グー・チョキパー・チョナーズが主宰する、
COME ON!! 虎ノ門製作委員会は、
まちのことづくり団体。
街と地域、街と企業、企業と企業をかきまぜて、
企業や町会ができないことを補い、
笑顔となるエッセンスを演出する。
さらに、活動を通して、街で人と人のつながりを生み、
街の生産性と防災性を高める活動をしています。



なんでゆるキャラやってるの？
なんでお笑いイベントやってるの？

虎ノ門周辺は働く場所。郊外、都心から通って来る場所。
朝行って、終業後、飲んで帰る場所。
そんな場所を少しでも明るく通える場所にしたい。
街を自分ごとにし帰属性を高めることが重要。
だからわかりやすいコンテンツで街や社会に
興味がない人を集めるために、わかりやすく、
楽しいコンテンツを提供。



今後はどうしたいか。

人の個性が街をかたちづくる。
グーもチョキもパーもそれぞれの得意分野を互いに活かし、
自分たちならではの良質なものができる。
1人ではできないことが、カタチになる。

虎ノ門は、もともと下町。
火消し文化もいまだにあり、伝統あるお祭りも継承している街。
同時に、再開発の街でもあります。
“まちづくり”というワードでそれぞれの想いで、それぞれが動いている。
まだ色のない街。
虎ノ門のまちづくりを大きく二分すると、
“サラリーマンまちづくり”＝デベロッパー
“職業まちづくり”＝プレイヤー
このプレイヤーが持続可能に価値提供できる仕組みを作りたい。



コロナ状況下でやった活動



YouTube 虎ノ門応援PV
『今できること』



軽症者受け入れ先ホテルと
飲食店をつなぎ
ホテルのスタッフ用の
お弁当の手配。



医療施設へのマスクとオリジナル
クッキー贈呈



テイクアウ虎メシ
テイクアウトを始めた店舗紹介

（２） 第２回交流会

令和５年度　町会・自治会交流会（第２回）

次第

日　時　令和５年１２月５日（火）
午後２時～午後４時
場　所　品川区役所第二庁舎５階 251 会議室

１．開会

２．出席者の紹介

３．事例紹介
西中延二丁目町会より活動紹介・質疑応答を行います。

４．意見交換
参加者の皆さんで意見交換を行います。

５．閉会

配布資料：
・「西中延二丁目町会」活動紹介
・アンケート

（出席者紹介）

コーディネーター：淑徳大学社会福祉学部准教授 菅野 道生氏

事例紹介：西中延二丁目町会

品川区町会･自治会参加者(11 町会)：
東品川第一自治会、池田山町会、上大崎一丁目愛誠会、上大崎一丁目第一愛誠会
西五反田七・五・三町会、西五反田六丁目町会、大崎居木橋町会
西中延二丁目町会、平塚一丁目南部町会、戸越二丁目町会、八潮１１号棟自治会

品川区：地域振興部地域活動課

令和５年度
町会・自治会交流会

１２月5日（火）　１４：００～

品川区役所 第二庁舎 ５Ｆ ２５１会議室

發智 敬子（ほっち けいこ）

昭和５４年生まれ、現在４４才。

西中延二丁目で主人、息子２人（小６・２）、娘の「ここあ」と暮らしています。

「朝の旗持ちをお願いできないか」というお話をいただいたことをきっかけに婦人部に加入。

【地域活動】

- 西中延二丁目町会 婦人部
- 毎週水・木の登校見守り（旗持ち）
- 品川区廃棄物減量等推進員
- 品川区庁舎跡地等活用検討委員
- 荏原消防団第三分団員

【コソリテ】

「子育てにもリテラシーを！」をモットーに科学的に正しい情報を子育てに生かすため、

専門家を講師に招き講座開催等の活動を主に品川区内で行ってます。

コソリテHP



2

昭和通り商店街盆踊り大会

毎年開催されていた「昭和通り商店街盆踊り大会」が運営高齢化のため、2019年で廃止となってしまいました。
当時、長男は２年生でした。学年全員で盆踊りに参加しよう！ということで踊りの先生（宮ト智子先生）が学校にしょうちゃん音頭を教えにきてくださり、
みんなで楽しく踊ることができました。

そしてコロナ禍に突入。
大人ももちろん、子どもたちもたくさんの学習機会、経験機会を失いました。
その間にも昭和通り商店街からはどんどんお店が減っていき、次々に新しいマンションが建ち始めています。
仕方のないこととわかってはいるものの、やはりどこか寂しいものです。
学校、PTA、地域の関りも時代とともに変化します。その変化に合わせていくことも必要ではないか、商店街での盆踊りはもう難しくても形を変えてみることで受
け継いでいけるものがあるのではないかと考え、学校の校庭で盆踊り大会ができないかと思い、各所に相談してみました。



2019年の様子



3

今年９月、延山小学校校庭にて盆踊り大会を開催！

すまいるスクールの先生、ママ友、卒業生、近所の方などに声掛けをしてスタッフ約４０名が集まってくださいました。
子どもたちが現金を持たずに自由に校庭内で遊べるよう『遊ぶ』ゾーンと『食べる』ゾーンからそれぞれ３つずつ選んでもらうスタンプラリー式チケット制にしました。
『遊ぶ』（射的・ぷにぷに金魚すくい・おはじき水中落とし・ピンポンカップイン）
『食べる』（かき氷・わたあめ・ポップコーン・しょうちゃんパン・ジュース）
Peatix（ピーティックス）で１枚６００円で販売し、これが今回の財源です。入
場のみは無料ですが、防犯上、無料チケットを申し込んでもらうようにしました。







4

来年は西中延二･三丁目、中延二･三丁目、４町会共催で！





今年は４００名以上の方々にご来場いただき「混雑してなくて安心して子どもと楽しめた！」「模擬店で臨機応変に優しく対応してもらえた！」「生演奏の盆踊りなんて贅沢！」「しょうちゃんに会いたかった」等の感想がアンケートに寄せられました。
その一方で、私の認識の甘さと配慮不足から各方面から厳しいご意見もいただきました。反省すべき点はしっかりと反省し、今後に生かしたいと考えております。
来年以降は地域のイベントとして、みんなで一緒に盛り上げられたらいいなと思い、延山小学校を避難所とする４町会にお願いをしてまわったところ、承諾いただけました。
町会の皆さまの温かさに心から感謝しております。

5

今後の予定・・・

1. 実行委員会を立ち上げる！
2. 日時、会場等を決めて始動！
3. 財源の確保！
4. 月１回のZoomミーティング！
5. 安心、安全第一のイベント開催を目指す！

6

☆いいなと思うところ☆

●近所に顔見知りが増えた、繋がりが増えた ⇒ 災害時は助け合いが必要不可欠なので心強い

●旗持ちでは子どもたちの元気な姿と成長を見ることができる ⇒ 入学当初は泣いて道端に座り込んで泣いていた子が一人で登校できるように☆

●勉強になる ⇒ 廃棄物減量等推進員として品川清掃工場を見学など

☆悩ましいところ☆

●役員会が夜 ⇒ 子どもを置いて出辛い

●学校、PTA、町会との関係性

●各方面から様々なお叱りをいただくこと

☆町会・自治会の活動について思うこと☆

子どもがまだ小さかったり、共働き世帯が多いのでなかなか地域の活動に参加するのは難しいだろうなとは思うものの、我々世代の問題意識も高める必要があるのかなと考えています。

町内清掃、資源の回収・分別、通学路の見守り、イベントの企画・運営、「もしも」のときの連携。

「誰かがやってくれている」から今の生活があるということを再認識し、一人一人自分事として地域のみんなで考えていけるようになったらいいなと思っています。

7

どうしたら加入率、参加率を上げられるか・・・

これは本当に難しい問題で、正直、私にもどうしたらいいのかわかりません。。

「町会・自治会」をまだまだ十分に理解できていない立場から思いつく限り挙げてみます。

●「〇月×日の△時から◇時までイベントの受付をお願いできませんか？」等、具体的にピンポイントで依頼してみる

●DX化 ⇒ 加入届、町会費の支払い方法、連絡手段等を可能な限りDX化する

●「町会」の手前の組織をつくってみる ⇒「町会」というワードに拒絶反応を示す人が少なくないので「〇〇サポーターズ」のような別組織をつくる

●AとBを兼ねる、またはAでBを宣伝する ⇒「防災訓練」では集まらないけど「こどもまつり」には集まる・・・

●中高生を活用する

8

令和５年度

品川区町会・自治会課題解決支援事業 報告書

令和６年３月

発行　品川区地域振興部地域活動課
東京都品川区広町2-１-36
TEL 03-5742-6690（直通）
FAX 03-5742-6877

受託事業者　株式会社ダイナックス都市環境研究所
東京都港区西新橋3-15-12
TEL 03-5402-5355
FAX 03-5402-5350